

5B 41

80

7
178



忠雅の大人平生筆硯を侶と一風雅の園に遊ひ時

は事物の褒貶興奪に於て其品評を  
特 66 かく間能く滑稽洒落を吐て人の頤を解く時一も

あれ政海の波瀾恒なきを觀て感懷頻に萌え和歌  
誹諧の名あるものとかいあつめて貴顯まれ紳士

人の口耳に觸るゝ名譽家に其題句を引宛て  
諷刺を寓すその体たるや笑の中に利刃を藏す如

きあり綿の内に針を埋める如き有眞綿に首と一

めらるゝ如きあり陽に賞て陰に福するるときあり  
一笑一嘆風趣万千實に切實必適にして其生膽を  
抽き其神魂を褫ふ用意周到愛憎に流れど公平無  
私以て不動の價値を定む此事一たむ成りてより  
世よありとあらゆる偽君子質志士の輩大人淨頗  
梨の鏡もて穴を捜られ尻を捲られ少くも其陰事  
醜態を逃るゝなりこれ方今の隣經筆誅といふと  
も絶て諛辭にはあらじ是よと妍媸美惡の價格一  
たひ定まりたとひ蘇張の辨を振ひ韓柳毫を運ら  
ずとも其題目を移す能えず其文句を改竄する能  
はず許劭の月旦山濤の啓事も物の數めはこゝよ  
大人の稟論を経て古流陳句は皆活動一正眞の秀  
士達人ははじめ盤固の輿論に預かるとを得ん  
事の関係豈笑話座談と同一に看做すへけんやと  
れは世の風潮よつれ運動を試むものはらまへて  
虞譽を釣らば聲價を竊ます方平廉潔に立はたら

きてアナリ一こ大人の品定しやまなめにわ・り不ふの字附つ  
の名を負給おまひそ

あらたまのとき立歸る辰のはじめつゝまた三鱈さんぞ  
道人はーがーす

名家 國會膽漬  
秀吟

東瓢亭自撰散人輯

和歌之部

○第二期総撰舉の勅令期日ちやくくれいじき ぎう

○今朝けさよりも雪氣ゆきけの雲くもの跡晴あとばれて

とどりにかへる春はるは初空はつぞら

○たえぐに氷流こほりながれて山川やまがはは

岩越いはこす波なみも春はるたちはにけり

○初春はつはるの今日けふいかしこき詔みことのり

のべよと千代ちよのしるしをぞ曳ひく

○議員撰舉ぎいんせんぎよを度外どぐわいに置おてる人

○やかまども草はもえあふ春日野を

たい春の日に任たらあふ

○貴族院新議員

○白き魚の御舟の内に入しこそ

代を治むべきしるしありけり

○諸大臣解散理由奏聞

○我たのむ君が爲にと折る花は

時しもわかぬ物にぞありけり

○元議員飯國再撰の運動

○此春も古巢尋て山賤の

やどを忘れぬつばくらめかき

○解散を、仕舞たと思ふ議員

○惜めども花はとまらぬ不破の關

山ふき越る春の嵐に

○解散

○吹風をちにいとひけん梅の花

散くる時ぞ香をまさりけり

○第三期國會議撰舉

○おしあへて民の草葉も打なびき

君が御代に春風ぞ吹く

○譲り合て圓滑に局結ぶ議員

○照りもせず曇もはてぬ春の夜の

○よにしらぬ 朧月夜にしくものぞきよ  
朧月夜は霞つ、

草のはらをば誰か尋ねん

○新顔議員の競争

○雪分て外山の谷の鶯は

麓の里に春やつぐらむ

○第二期國會議員衆議院へ参列

○こゝに來て春日の原を見わたせば

小松が原に霞たあびく

○動議提出しても賛成あき議員

○あらち山谷の鶯野邊に出て

鳴けどもいまだ春のあは雪

○公平議員演説

○百敷の御垣の竹は鶯の

聲のうちあも千代ぞこもれる

○再撰議員

○百千鳥さへづる春は物ごと

あらたまれども我どふりゆく

○板垣總理

○山の端にいつもかくれる白雲の

あを立登る夏の空かあ

○伊藤前議長

○世を秋と思ふ心に静まる

身をおく山のかげぞ涼しき

○大隈重信

○君子ども呼ばれし花は蓮葉に

誰かは味噌を包初にし

○自分免許の候補者

○埋れ木の心を知らせ名取川

さもあらはれて飛螢かあ

○蕪派の勢力を頼んでは油断は不成

○牛の子に踏まれお庭の蝸牛

角あればとて身をばたのみて

○廿六日朝の議員

○今朝のまに寐覚涼しき夏衣

ひとよよたらぬ秋の初風

○政府

○今はまだ時雨るまではあけれど

秋のあらひの浮雲の空

○板垣大隈會合

○さかばやあ二の星の物語

たらぬの水に寫らましかば

○國會の成行き

○誰が中を吹よりかはる秋風を

契とたのむ星合の空

○候補者に名乗出ても投票人の無一人

○道の邊の人にふまる、翁草

○松方總理豫算不同意演説

○夕立の雲もどまらぬ夏の日の

勅撰議員

○徒らに世にふるも乃と高砂の

○新議長候補者の奏聞

○あかず猶今宵の月のくまあき

○國會解散存外早し

○これをさへ世のありさまの今宵か

俳諧の部

○憲法

○日本の雛形なれやしめかざり

○貴族院議員前衆議院議員を問ふ

○新議員撰擧

○かまかりに隣を見舞ふ柳かあ



○花笠を着せて似合ん人は誰

○議員版國に妾が跡に付て行

○散る花を追かけて行く嵐かあ

○進物貰ふて投票とる人

○袖口へ朝日にはいる茶摘かあ

○失廢議員

○雀にもあらで桑名の夕けむり

○解散を時機として新に競争する候補者

○此雨に花見ぬ人や家の豆

○十二月廿六日の朝

○武藏野は今朝一ぱいの霞可あ

○公平議員

○まがれるを曲でまがらぬ柳かあ

○鳥尾君

○折ふしは風よはら立やあき哉

○議事録の妙言

○行水や何にといまる海苔の味

○草稿演説

○鶯に問はめや梅のかき遣ひ

○貴族院

○川上と柳哉梅哉百千鳥

○勸告入れらるゝ

○立寄てるの木もやらぬ暑かあ

○公平議員に對して何れの黨派からも

○中惡ひ隣りも褒つ花うづき

○第二期開會に出席した議員

○手を取りて惜む盛りや二十日草

○議員主義種々有り

○蓬萊や壘の上の海と山

○主義の不分演説

○歌か否連歌にあらざ辛螺肴

○競争議員の投票少數

○問はれては年の耻かし若戎

○黨派の激文

○人は我を戀といふらん懸想券

○再撰議員

○去年立し春も今朝しる霞かあ

○伊藤前議長

○花は去年今年と祝ふ梅ぼろし

○第三期國會議員の出京を待て居る藝妓連

○藏開きおとしと猫の付てゐる

○解散に成てもかまはず主義を立通と議員

○Sびさらば雪見に轉ぶ所まで

○豫算原案

○一年の心さだめやたあふるし

○人望議員

○鶯のゆびり出しけり柳の芽

○解散後の議員

○雪解や寺どあらはれ谷とあり

○公平新議員

○翠たつ岸の姫松目出度さよ

○公平人物は運動あさぞ

○匂へ猶知る人誰ぞ宿の煤

○春風の空に梅咲にほひ哉

○若草や人は神代のいはた帯

○候補議員の奔足

○朝鷹や出るも戻るも小暗り

○花の咲木はいそがしき二月哉

○ひとつ着て出るも悔しき春日哉

○幾度でも解散と云ふ意氣込

○むしりては捨く春の草

○谷議員

○水を出て水より清し牡若

○親王議員

○竹の子は産の儘ある育ちかな

○農商務大臣

○名は高く聲は上あしほど、ぎそ

○政府は方針

○啼きとも鳴かせて聞ふ郭公

○諸大臣

○啼け聞ふ我領分のは、どぎそ

○吏権黨

○どふありと御意にしたがへ時鳥

○運動に功力あかつた議員

○郭公ほど、ぎそとて寐入りけり

○解散勅令

○一聲は月が啼たかほど、ぎそ

○候補者辭退

○涼さも暑もいやか眉に入

○議員の躰裁を新聞計で見居る人

○聞ばかり一目は見たし初松魚

○建議案の解散後

○六日には塵の部に入る菖蒲かき

○無言議員の正義

○くちあしはいふに言はれぬ薫りかき

○くちあしの花は心のある世かき

○口頭斗にて定数の賛成を得る議員

○實の入りぬ文や言葉の花石榴

○總撰舉新議員

○若竹や雪の重みはまだ知らせ

○無所属議員

○夕へにも朝にもつかせ瓜の花

○反對論者同士

○隣りから此木憎むや蟬の聲

○速記者

○晴で候また曇り候富士日記

○解散

○是までと夏に手を打つ御板

○風あらで驚く秋の一葉かな

○質問明瞭な答辨

○聞く人の心をあらふ泉かあ

○政府原案否決

○かみふと流れて通る清水かあ

○豫算減額の通過

○筆勢の石をつきぬく清水かあ

○自由派に吏權黨

○あちらには寒さもあるか雲の峯

○團躰に加はる議員

○白雨や法華かけ込む阿彌陀堂

○十二月廿五日の夜

○風かほる夕べや浪の花ざかり

○公平を反對者

○裏見せて涼いさ瀧のこゝろ哉

○撰擧するに注意せよ

○蝸牛角ふりわけよ須磨明石

○國會

○翌の夜は早うつとしき蚊帳かき

○開會中政府の役員

○梶を取り草の露とるあした哉

○答辨不成質問

○七ツ子に問ひつめられて天の川

○豫算案は前年度による

○及ばぬは古歌で濟けり星祭

○議長

○白露もこぼさぬ萩のうねり哉

○部長

○ばせをにも思はせぶりのうこん哉

○候補者に約言を

○酒呑みにぬひ號あり生瓢

○中江篤助

○身退や螢も秋の天の道

○親王議員

○八朔はつぎくや義理ぎりに顔出かほだと梅うめの花

○新識しんぎ長候ちがうちう補者ほしやの奏問そうもん

○明日あすの名なに月つきもあらずふ光ひかり哉

○月つき今宵こんやくもるも明日あすの光ひかりかあ

○總撰舉そうせん開票かいひょう前日ぜんじつ

○待宵まつよひやまつ間まも月つきの物語ものがたり

○まつ宵まつよひのまだいそがしき月見つきみ哉

○總撰舉そうせんに當籤たうせんに成ある人

○月つき今宵こんやおもふとあき光ひかりり哉

○撰舉せんじゆの時ときにはやたらに奔走ほんそうして撰舉せんじゆあると頼たのど人民じんみんの爲ために成あらざる議員ぎんいん

○時ときどきは油あぶらしばらくらぬ菜種なづなかあ

狂句きやうくの部

○勅令ちよく せい

○天あまの岩戸いはとは日本にっぽんの火打箱ひうちばこ

○尾濃おのう罹災りさい緊急きんきうの勅令ちよく

○上下うへしたに心こころを附つる慈悲じひの文字もじ

○解散かいさん

○一疋いつびきの螢ほたるでくさす門かどすいみ

○雷かみかみりがおちづば雲くもの上うへはやみ

○海山うみやまがわれて目出度めでた一年酒客ねんしゆきやく

○七條しちじょうの引導いんどううけて議員ぎんいんぐにや

○立憲はいと議員はほられ

○解散後黨派の集會

○雪解て鼓が龍は乱拍子

○解散を聞た時の議員

○芭蕉は飛こみ道風は飛上り

○聖丸は實に身軀の寒暖計

○外國新聞解散評

○古池は世界へひやく水の音

○朝廷

○御神慮は加茂に上下の隔あし

○政府説明委員

○開語花といろ競ふ植ざくら

○黨派頭の動議

○何も斯もうつる井筒の水の面

○板垣に大隈

○白眼だらまけだど鬼の笑ひ競

○下手動議の演説

○花笑ふ上野ふき出す水も有り

○賛成表と黨派議員

○鐵線の無いは目と目の電信機

○自由黨分派鐵道買収論

○解けあふた帯は屏風でもつれ合ひ



○粟谷速記者の馳走

○鐵瓶はうたつた後でおどり出し

○減額説をやり通す議員

○生死を争そふ醫師と和尚の基

○再撰に不成議員

○安もの、辨慶編は一度限り

○會議に怒る議員

○脹れるを焼躰見て知れ腹は空

○勅撰議員

○千年同士壽も相生の松に住み

○議員休憩所

○樂屋では敵も味方も入り乱れ

○陸奥大臣の答辨

○高梨へ答辨たかの知れた事

○政府原案

○海上の衝突陸で突出し

○地價修正案提出

○修正は地價やせんかと洒落て言ひ

○樺山大臣演説

○寄る浪耳にも入れぬ艦軍

○伊藤前議長

○罪は作らむ菊作る樂隱居

○ 議事堂

○ 御代の春海老から胴もかざり物

○ 貴族院反對者

○ 血をわけた身とは思はぬ蚊の憎さ

○ 不動主義

○ 洗ひざめせぬが薩摩の躰りあり

○ 衆議院解散貴族院止會

○ 引くも千代のこるも千代の子の日松

○ 近衛公

○ 竹に生れた鶯すのふしのよさ

○ 衆議院貴族院

○ 隣同士よい中垣に梅笑ひ

○ 吏權黨

○ 見下られても芳しき谷の梅

○ 公平議員

○ 青柳と世に逆らはせ諂らはせ

○ 第二期の新議員

○ 糸柳のむそばれを解く春の風

○ 議員飯國

○ 故郷へ錦やふ入りの御紋附

○ 豫算減額通過

○ 尻からげして空走る奴尻

○低聲議員

○猫の戀ニヤント言ふやら分りかね

○減額議員の爲に吏權黨迄改撰

○蠅を生け捕んと土瓶を張倒し

○廿三年の時議會

○珍しひ程に味あし初あそび

○初期國會議員

○先陣の蚊は掌で討死し

○政府方議員

○喰ふ蚊より喰はさぬ颯迄打殺し

○議員退散

○冷かしを冷かして飯そ氷見せ

○政府委員

○揉ま瓜に力のたらぬ媳の腕

○鳥尾の一喝

○雷りが夫婦喧嘩を和熟させ

○減額修正

○つまらんと云ふは小さい腹ぶくろ

○保安條例維持

○無ひ様て有るは娘の今のもれ

○憲法作者

○讀人しらぎで忠度は名が高し

○減額修正復案

○手の裏を返して御慶申入れ

○厄介者

○ぬかるみに足駄とられて三番叟

○諸大臣

○あらかじめ母に言はせる媳の禮

○鐵道買収自由黨二派

○人同じからせ花見の仲間われ

○小澤氏免官の質問

○御返事に出せ山吹は無言あり

○不採用の建白書

○空をねめく辨當内で喰ひ

○廿五年度の議事中

○獅々と蝶二十日餘りの中よさ

○議員登院

○土俵入まける景色は見へぬあり

○豫算増額議員

○向ふから越す人の無ひ年の坂

○請願原案出来

○餅は搗く是から陸をつくばかり

○老人議員

○目は目がね齒は義齒にてまにあへど

○多額議員

○少し名の立ち嬉しき若ざかり

○解散達し請る人

○取次に出る顔のちひ煤はらひ

○冷評議員

○大笑ひ下女は寐言に屁がませり

○廿五日の内閣

○ぎり／＼の處で常盤は色をかへ

○秘密集會

○鹿ヶ谷みんか道をかへて来る

○政府委員

○色を思案の内にして虎の巻

○草稿演説

○義経は辨慶の下書でふくみ状

○粟谷翁

○笑ひ止む迄は高座で汗をふき

○説明委員

○言ひぬけを皆んか女房に覺えられ

○政府と議員

○ためたがる遣ひたがるで不斷もめ

○河津委員

○通言は親仁の耳に逆ふあり

○諸大臣

○是ではどふも是ではと聳思ひ

○第二期投票

○ほれ薬佐渡から出るがいつちき、

○説明聞いて居る議員

○御談議も聞たし媳もいぢりたし

○廿五年一月

○心にも上下つけよ今朝の春

○新勅撰議

○身にあまる風にひれ伏す川柳

○中島廿四五日不参

○初雞の啼ころ鬼はかけ隠し

○解散された議員

○我尻を言はせ盛を小さがり

○會議にかせむ議員

○蜻蛉釣る丁稚練り人形ぶり

○説明委員のつふれ

○あきく戻る虫賣の不商ひ

○第二期國會開日

○一日千秋豊年の役日あり

○公平議員

○蔭日南あつて依估あし天れ恩

○廿四五日の議場  
○物は用心降かゝる前月は傘

○朝靄ともやは先の見へぬ物  
○同時の議員

○朝靄ともやは先の見へぬ物  
○貴族院  
○譲り合ひ道幅廣し君子國

○親王議員  
○竹の園寄る賢人に節はちし

○豫算會議前松方の演説  
○張良は靴を渡して下駄預け

○後藤大臣

○子の異見して思ひ出す親の恩

○板垣退助

○悪堅ひ息子に困る粹親仁

○大隈重信

○片足にかれと添乳の子を育て

○議長演説

○傍聴はあくびを鼻で修正し

○議員

○人柄も心の味も舌で知れ

○禍ひは兎角上下の口にあり

○慾に目が無ひから向ふ見へぬなり

○外國より見ると

○宗旨論をもちが負ても釋迦の耻

○開會以後無言の議員

○琵琶の曲下手か上手か知れぬあり

○原案通過

○懸取の笑顔は右之通りあり

○緊急勅令の可否延日

○入りの有る内は敵を討もらし

○多額議員

○世の中に持べき物は小判あり

○前の議長伊藤

○大判は財布へはいる物で無し

○政府と議員の一月

○姑も嫁菜も春は野に遊び

○公平議員と政府諸役員

○諸説をば入れて脹らそ智恵袋

○樺山大臣演説中の政府諸役員

○彼時は氣がもめたよと菅浦云ひ

○諸黨派總撰擧の競争

○火と水の不思議は一の二月堂

○原案維持に分つた理由を長々演説と

○涅槃會に啼く鶯とは釋迦に經



○傍聴筆記か有るて能く賣れる新聞

○義齒匠は人の口にて飯を喰ひ

○天保生れ實着議員

○空理より實業教にて名が高し

○無主義議員

○どの宗旨にも中の能ひ蓮の花

○市高俄博覽會費

○旗色のい、れは初の節句あり

○原案不通過の主務大臣

○韓信は罌丸の筋で舌を出し

○漸橋柳橋其他遊所にて議員

○四角でも巨燧は野暮な物であし

狂歌之部

○第二期國會議員の招集登院の時

○見わたせば柳櫻に都衆が

伊達こきませせて行く東山

○賄賂にては逆も撰擧はせられません

○銭金で直をさそあらば驚の

ほうほけ経も一ふ入くはん

○實業家紳士の候補者

○花は櫻餅はもちやがよいと云へど

こちらは富貴の花に目がつく

○公平潔白議員

○傾城と詩とに作し花かれど

どかく牡丹は白に極まる

○貴族院議長

○咲ふりや牡丹と百合の中々に

おめせ出過ぬ芍薬の花

○解散後の政府

○風つよく吹みにしては蜘蛛の網

かゝる世界は油断大敵

○米商會所の質問に對し答辨

○夕立のふりかゝるとも早速に

うけあかそべき袖合羽かあ

○國會でも貪着せせ哲學ふりて居る内國人

○鵜を遣ふ者は地獄と知りあがら

吞で見てるる我は極樂

○解散

○年男あふて日數も立ざるに

早くも解る雪女かあ

○公平新議員

○常盤ある松の緑も春喰へば

今一一はの菓子味ひ

○よもや解散は有まいと思てゐた議員

○初といふ名も呼とても雷を

落よとだには思はざりけり

○第二期改撰國會

○見事やと申もくだの様あれど

今年はいとゞく櫻は

○廿五年度の國會

○葉も無ははかあきとや示すらん

散事早き彼岸櫻は

○再撰に成で有ふと思ふ議員

○花さらば名残は尽じさりあがら

頓て又來て青葉思へは

○廿五年度の國會解散理由

○名月やさて名月や名月や

秘藏の植木邪戸に成けり

○民權擴張に依り入費追々多額

○御所望にあひに扇を書よごそ

元の白地があ、ましじやもの

○官途を辭して議員にゐる人

○極樂もからくりめきて蓮臺を

離れて人も飛ぶ身ありけり

○新議長候補者奏問

○飯も咽通らぬ程の司召

御前の首尾の御めし待あり

○撰擧して其處の不面目成る議員

○諺に鷺に鳥はさもあらん

蔓にからすの瓜はいかある

○主義の不分議員

○間引菜の根も葉も同じ物あれば

蕪か菜種か問て見たやあ

### 恥の木 狂言

次第ゆくへ 行方さだめぬ道あればく越方も何處からよし  
隠密派遣の官吏にてし我此程は尾張の國にひひしが餘りに雪

深く成てし程に、先此度は大阪に下り選舉の模様を察せばや  
と思ひし、道行かると都ある日比谷の原にたつ煙く散ゆく人の懐  
を吹くや寒さの冬空に、歸る旅費なき前議員、今ぞ歳費に離れ  
ゆく、その落膽につけ入りて、見事な味方作らんと大阪府にぞ  
着にけり、急ぎし程に是は早や大阪府に着てし、餘りの大雪に  
し程に、此所に宿を借らばやとおもひし、いかに此屋れうちに  
案内申し、ツレ女房「誰にて渡りしぞ」「是は旅人にてし、一夜の  
宿を御かししへ」「安き御事にてしへ共主の留守にてし程に  
お宿は叶ひまじ」「ア、降たる雪かな夫雪は議員に似て飛で  
散亂し人は候補を争て立て徘徊と云りされば今降たる雪  
も、本見し雪にかはらぬと我は赤ズボンを穿て立て徘徊すべ

き、勇氣も既すでに雪折れの矢竹心ぞいかにせんあら面白からせ  
 の雪の日やあ、ツレ女房「旅人の御入おん入りれが一夜の御宿と仰おんひ程に  
 御留守のよし申まをしては御歸おんまで御待おんちし由仰おんひ「其旅人  
 はいづくりに渡りしぞ「我等が事にては、まだ日と高くしへ  
 共餘の大おほ雪に前後を亡ぼろじてし程に一夜の宿を御かまおんいへ  
 略）是はうき身に大阪の街の雪の夕暮に迷まよひつかれ給はんよ  
 り見苦敷みぐるしくしへと一夜は泊り給へや、實是も旅の宿く、假初かりそめち  
 がら値遇の縁、一樹の陰のやどりも、此世ならぬちざりあり  
 (中略)「いかに申し、主の御名字をば何と申しぞ承り度  
 し「いやそれがしは名もなき者にてし「何と仰おんひ共唯人  
 とは見え給はずし何の苦しうしへと御名字を仰おんひへ「此上

は何をかつ、みしへは是こそ阿房屋入道赤服があれの果にて  
 し「それ何とて個様に散々の躰には御成おんしず「議會解  
 散の命に逢あひ斯様の躰ていに成なりてし「さらば、あと再び候補者  
 とあり選舉を争あらせしや「個様に衰へてはしへ共今にもわ  
 れ政府に御大事出おんくるあらば、古びたりとも此赤服取あけて投なか  
 け、細くともヌテッキを、持ち疎末そまつながら、あの馬車ばしやに乗り一  
 番に走はせ参まじて着到ちやくたうにつき、儲議會初たくわいまらば、民黨大勢あり  
 どもよく一番に御味方おんに加りて、よかれあしかれ難波がた  
 漂たづついても政府案徹頭徹尾賛成し、人の笑わらひも厭いとはんや、此  
 事ことにさうぞ「よしや身の斯おんては果はて只頼ただめ、お味方おんさん

心あらば、又こそ當選の助あらん、暇申して出るあり、さらばよ入道、又お入と共に名残や惜むらん

●當世淨瑠璃見立

- 夫の討死遊ばどを 再撰ニハ不成借金斗残りタ内室
- 出て来る子供は頑是かし 何原案でも反對に立議員
- 知らぬ顔の半兵衛さん 前の大官達
- 道は久吉能く言たり 松方宣言
- 千年万年待たどて 完全なる同會
- 濱邊の方に陣所を構へ 限板黨派
- 敵は多勢味方は一人 説明委員

- 落行先は九州相良 解散後の舊議員
- 思ひ廻せば此程より 落膽の舊議員
- 遣ひ果して二分残る 歳費の餘
- 討死するは武士の 政府黨
- モウ目が見ぬぬ 十二月廿六日議員
- 妾ヤ迷ふて居るわいか 無所属議員
- 鵜の嘴はど違ふと云ふは 鐵道買収案賛成の實業家
- 留主は猶更女氣の 再選競争者の細君
- 虎れ威を借る狐ども 擬壯士
- 身の終さへ定かき 愛岐兩縣下の人民
- 是さへおれば大願成就 運動費の下附

○何ともきいと皺面作り

再選見込なき者

○又も都を迷ひ出で

官吏の選挙争

○魚心あれば水心

議員の買込

○思案投首しほる、計り

松方伯

○介抱如才泣くばかり

大木伯

○此處に御坐有ては危しく

榎本子

○勝利いかにと庭前の

後藤伯

○イデーひしぎと身繕ひ

樺山子

○お諫申した其時に

陸奥氏

○唯一撃と氣は張ゆみ

高島子

○無念ながらも唯一騎

田中子

○随分お手柄功名して

品川子

○差足拔足うかいひ寄り

園田氏

○時延るやど不覺のもと

藩閥政府

○兒は不便にはあいか

國民

○互の運は天王山

政府黨 反對黨

○お氣に入らぬと知ながら未練を私が輪回へ

明治○○○

○今の思ひに比ぶれば一年ぶりに此そのが

○名畫の力が有るあれば可愛とたつた一言の

大隈重信

お聲が聞たいくと

政府黨議員

○父も死こへづ母様も夢にも知らして下さつたら

廿五日の晩

○初めは憎やと思ひしがつい其人がいとしふなり

民黨をヒイキ人も今日では

○そりや聞へません傳兵衛さん 解散の勅

選舉幟

稻村内の段

よはみを付込む厄病の髪も頭も引しやあぐり、さいかむ折か  
ら表へいさせる。一ハイ候補者の名前で御ざります、もう追附選  
舉ぢや程に早ふ競争あされませと書付はり込み立ち歸れば卒

駄右衛門押ひらさ何ぢや熱ケ種に稻村、ム、スリヤ今度の後補  
者ど、コリヤ見い、をれと我どが競争ぢやとはやい、ム、時も時、  
折も折、我身とをれが競争こい、ハテ氣味合お事ぢやのと云ふ  
も心に一思案 詞 コリヤわれも田畔の稻村と云はれては世の中  
へ名の通た者をれも亦軟派の一人、殊に今度はお味方買込の  
主義あれば此競争も負るが最期顔つふしぢや、スリヤコン二人  
あから大事の競争、一期競争の仕返し爲たれば此算用は濟で  
あるが又其時の借錢は、をれ次第ぢや、オ、此熱ケ種の心次第  
ぢや程に、水心有れば魚心有り、頼む事も頼まれる事も、マ  
今度の競争仕舞てから其うへの事にせうわい、われも随分壯  
士でも追ひ使て、をれに勝様せい、したが可愛や已と競争志



たら、金銭が入て、重て首が回らぬぞよ、どうぞ有志者を頼  
 で、取りかへて貰てありと競争せぬ方が勝ちやらうが、それ  
 共又競争して見やうと思なら、サ魚心有れば水心、ナ稻村選挙  
 場で逢ふと、つよい詞のどこやらに、あぢかステツキ引る  
 ゴム靴、ギユウつかせてぞ一コリヤ稻村、ソレ今いふた魚心有れ  
 ばナ水心、必き忘れてくれなよハ、出て行くの跡に稻村諸  
 手を組み思案にくれて居たりしが一段々日切の切た借銭、金  
 主か催促するも周旋人の皆しはざ、とかく熱々種を抱こんで  
 期限を延して貰ふより外は無い、といふても一筋縄では行か  
 ぬやつ、抱込仕様は、ム、魚心有れば水心有り、ム、こりや今度  
 の選挙は譲てやらざ、あるまらぬの、ソレくわれと己どが

競争こそ幸ひ美しう譲てやり、其上でのつびきさせ頼むが  
 近道上分別とは云へ名高き熱々種、どうこんたんしてありと  
 も、勝ねばあらぬ晴の競争、云ば一生懸命の大事の選挙を金  
 ゆへに譲つてやる稻村が心の内のせつあさ、きたなな政黨員  
 にも見放され議員冥加につきたかと思はず拳を握りつめ身を  
 ふるはして男泣、始終を立聞く女房が涙をかくして一才、こ  
 ちれ人としたことかさつきから飯こしらへて待て居るのに爰  
 で上るか奥へ据うか。何氣かければそしらぬ顔、イヤモ飯から  
 喰たふあいヤホンニ相談會から呼ぶ來た、ドレ行てこうと立上れ  
 ば「コレ待しやんせ」服の胸がさつら亂れて有ぞへ人中へ見  
 ぐるしい直して上ふと立ちよれば「イヤ」直して居ては隙が

入るついで此ま、で置てたも、チ、おまへもこんを服にて行かしや  
 んした事はちいが、せめては胸を直して下さんせぬか 胸ど  
 は何を、サイナおまへの胸の、それ、もやくやをと云ふ事ぢやわ  
 いちイヤく胸は直そまひく、つひ襟だけ直してたもと傍に  
 座れば女房も押ては直さぬ胸の中、襟のものがみを付をを、  
 服の胸より夫の胸うつして見たき姿見に寫せばうつる顔と顔  
 一申稻村殿色も青ぢめ、そしてまわ目の中もうるんで、どう  
 やら氣色の悪さうを顔付も、今日の相談會へは斷りいふて  
 往てくださんすぢ。何をあんだら盡すぞ何時は兎もあれ今日  
 の會は熱ヶ種と此稻村が候補の争ひ、何でも今度の選舉にも  
 熱ヶ種を負さにや置ぬイヤそりやうそぢや、今度の選舉は熱ヶ

種に讓てやるお前の心。聲が高い、スリヤやつまからの様子。殘  
 らせ一間で居りました、わづかお金に手詰て難義さしや  
 んすがわえや悲いわいさく(中畧)わづか四百圓の金故に大  
 事の選舉を讓てやらざ、あるまいと思は、甲斐ないやら口惜  
 いやらで已や胸が裂るやうなわい、オ、道理で御ざんと尤  
 で御ざんすわいさ、代議士を亭主に持ち東京議會へ行かしや  
 んすりや其跡の留守は猶ほさら女氣の獨りくよく物案お夫  
 に耻辱のちい様にと祈る神様佛様、好おお芋も斷ものし、戻  
 らしやんして顔見るまで案お夜も寐ぬ女房の今此せつある  
 苦を連添ふ私に云はしやんせぬ、お前はそれほどつれあい  
 と女夫とありし今迄を、かぞへ立く恨涙に時移り早追々の

よび使つかひ「女房共往むすめどもてくるぞや、そんならどうでも行いかしやん  
すかホ熱あつケ種たねを抱だき込こんで工く面めん通とほりいさや格かく別べつ、もしも行いねば絶ぜつ  
命めい、さらばと計はかり一ひと聲こゑを跡あとに残のこして出いて行いく

追加

解とあふて清きよ水みづと成なるや春はるの空そら  
地球ちきゅうとおあし丸まるる納なる國くにの會かい

名家秀吟 國會膽つぶ志終

編纂の口上

去年きょねん東京とうきょうに滞たいざい在ざいの中なか一いち日にち國こく會かいの傍ぼう聽てうに誘さそはれし  
に大おほきほに感かんぜる事こと有あり、では有あるが、此この寒さむいに辛しん抱ぼう  
してお談だん議ぎを聽きて居ゐるより豆とう腐ふで一いつ盃ばいの方ほうが余よ  
程ほど上あ々あ吉きちと、自ま由いう決けつ意いして客かく舍しゃに飯いり安あん座ざで熱あつ爛らん  
二三にさん杯はい後あとは幾いく等らか頻しきりに吞のみ夫それより日ひ々々の來らい友ゆう  
有あれば拵ひつとら捕とらへて朝あさから晚ばん迄まで酒さけ壘たいと猪ちよ口くの交かう換くわんで  
廻まはらん舌したで卷まきちらし、皆みな卷まきこんでの多おほ句く駄だに我われも  
尻しりを卷まき揚あげられてはど心こゝろ附つて卷まき限ぎりを先まづつけて飯い坂はん  
を爲なす、其その後のち彼此ひたしの新聞しんぶん紙しに國こく會かい傍ぼう聽てうイヤ傍ぼう見けん

をなほに益々感を増せども是で之進も迎ひ酒の  
功能なしと厚感増くも又愚意く吞で句歌を  
列たて各位の御笑に供るとは實に膽の潰れるじ  
やおまへんかとは自撰散人の句歌

同感諸君之廣告

國會にかゝる名吟名句又は替へ哥拔文句其他  
自詠隱居雜談等膽潰に適合爲す物は第二輯に編  
纂に記載致候間發行者宛に御送附被下度其の優  
劣により製本幾冊か呈上申候其の記削の任は編  
輯者之自由に任せ玉和禮嘉志

明治廿五年一月廿一日印刷

同 一月廿二日出板

定價五錢

大阪市東區本町四丁目卅一番屋敷

編輯兼發行者

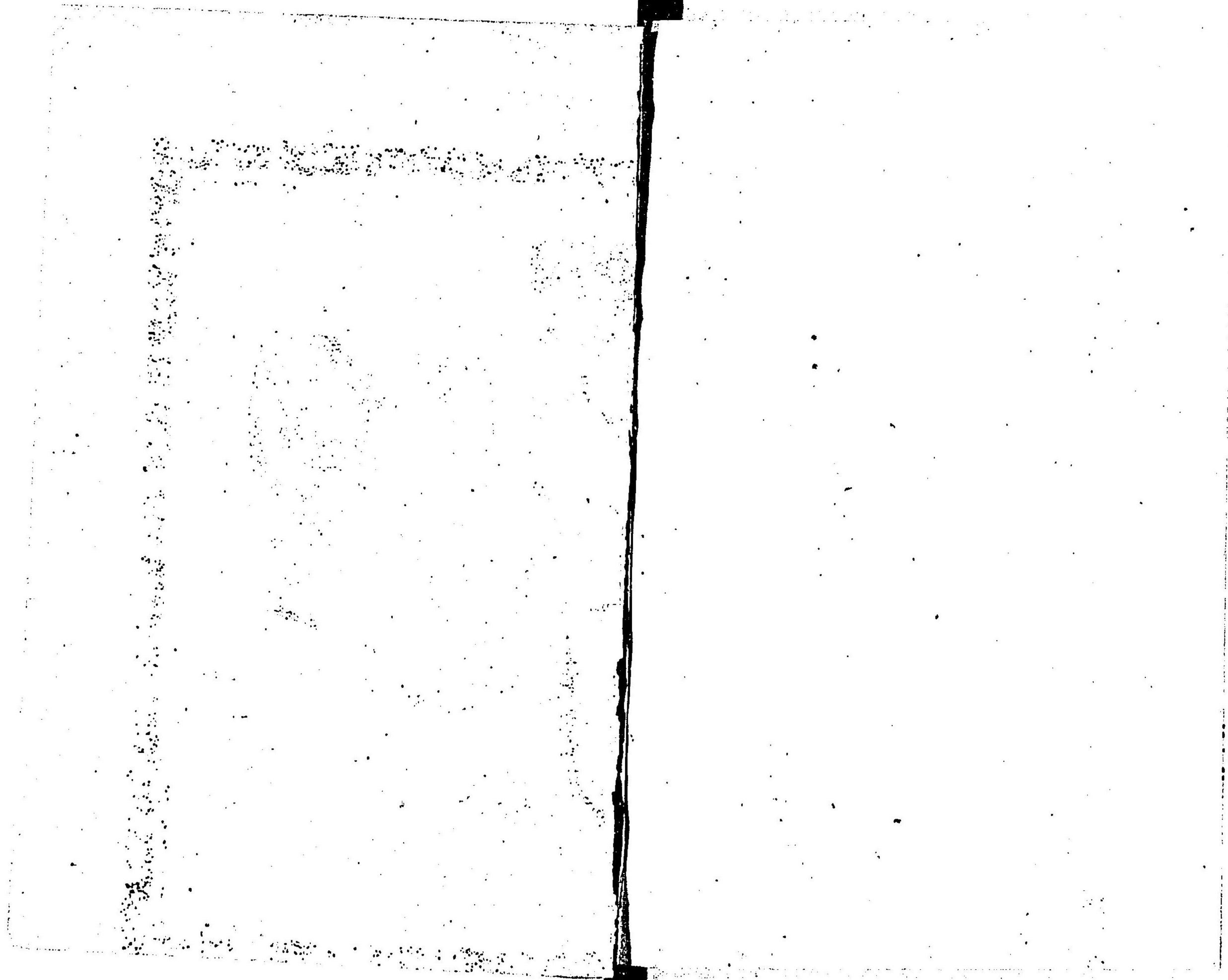
赤志忠七

大阪市西區靱下通二丁目四十八番屋敷

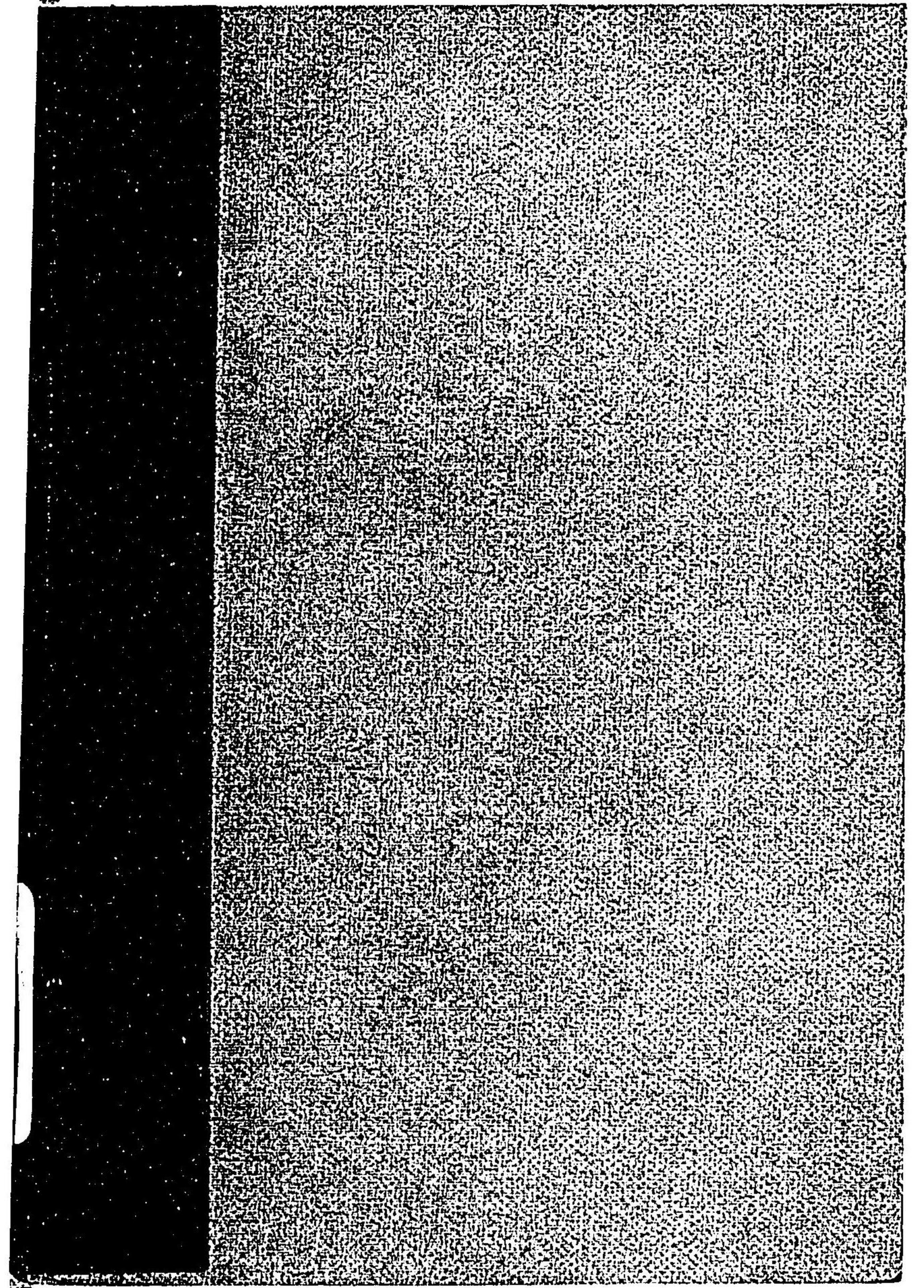
印刷者

瀬戸清次郎

- |    |             |       |
|----|-------------|-------|
| 大  | 大阪東區御靈前     | 松本平兵衛 |
| 賣  | 西區京町堀兩國橋西   | 平野藤七  |
| 所  | 同 京町堀羽子板橋西  | 大野花松  |
| 別  | 同 北區老松町     | 別所はる  |
| 同  | 同 天滿十丁目筋    | 本屋文助  |
| 同  | 東區松屋町大手通南へ入 | 松本南哥久 |
| 同  | 同 農人橋北へ入    | 京屋吉兵衛 |
| 南區 | 戎橋北詰角       | 伊藤柴儀八 |
|    |             | 竹柴米助  |



58 41



091648-000-7

特66-8.18

国会胆潰

東瓢亭 自撰散人／編

M25

DBO-0102

